

カメムシ類、いもち病の発生に要注意！

1. 斑点米カメムシ類が畦畔で例年より多くなっています

県内全域に斑点米カメムシ類の発生予察注意報が発表されており、湖北地域でも斑点米カメムシ類を多く確認しています。

今後、水稻が出穂すると水田内に入り込み、加害することが懸念されます。以下を参考に適期に防除しましょう！

<7/17 県病害虫防除所発表の病害虫発生予察注意報第5号参照>



アカスジカスミカメ

○小型種(アカスジカスミカメ・アカヒゲホソミドリカスミカメ等)が多く発生しているほ場

薬剤防除の適期は、乳熟期頃(出穂7~10日後)です。



ホソハリカメムシ

○大型種(ホソハリカメムシやクモヘリカメムシ等)が多く発生しているほ場

薬剤防除の適期は、糊熟期頃(出穂16日後を中心に出穂10~20日後)です。

・キラップ粒剤によるカメムシ防除を行う場合、散布適期は出穂10日前~出穂期ですのでご注意ください。

○斑点米カメムシ類の防除時期の目安

品種	移植時期	出穂期予想	防除時期
			粉剤・液剤
みずかがみ	4月下旬~5月上旬	7/16~20	7/26~30
コシヒカリ	5月上旬	7/20~27	7/30~8/6

雑草管理が不十分な畦畔でイネの出穂期以降に草刈りを行うと、斑点米カメムシ類を水田内に追い込むことになり、被害が増大する恐れがあります。やむなく行う場合は、薬剤防除直前に実施しましょう。

2. いもち病 早期発見・早期防除に努めましょう！

本年は6月下旬～7月上旬にかけていもち病の感染好適日が頻発し、7月中旬以降、湖北地域でも各地で葉いもちの発生を認めています。

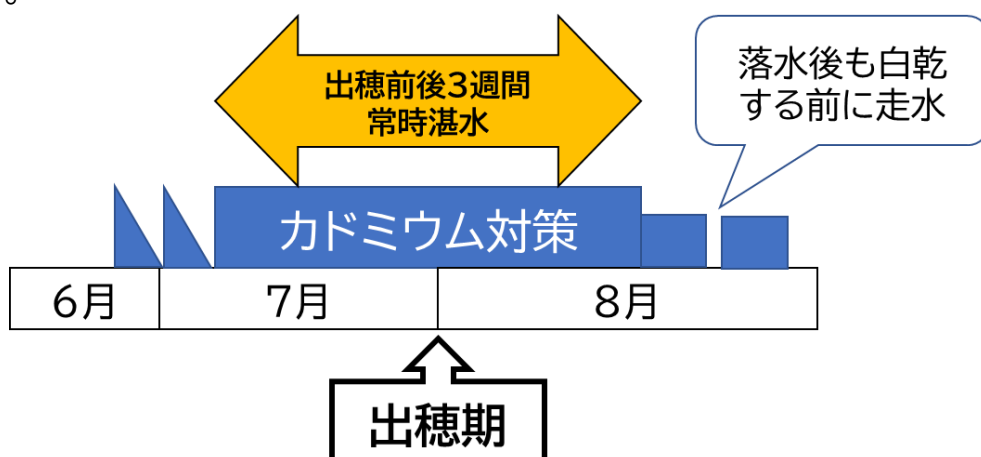
葉いもちは穂いもちの発生源となります。例年いもち病が発生しやすいほ場を中心に見回り、発生が認められた場合は必要に応じて防除しましょう。



写真：葉いもちの病斑とすりこみ症状の発生例

3. 出穂前後各3週間は「湛水管理」を確実に

- ・湛水管理は品質向上とカドミウムを吸収させないために重要です。
- ・排水口を閉じ、かけ流しをせず、田面が露出しないように管理しましょう。



※5月上中旬植での水管理のイメージ(コシヒカリ)



《熱中症に注意：作業中は、こまめな
塩分・水分補給と適度な休憩を！》